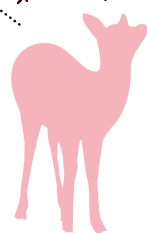


まほろばだより

第52号



● Contents ●

- Report 1 第14回女性研究者学術研究奨励賞受賞者決定
- Report 2 近畿地区近隣医科大学医療職サポート事業共同フォーラム報告
- Report 3 過去5年間に産休・育休を取得した男女医師数
- Report 4 教職員の保育環境について

Report
1

第14回女性研究者学術研究奨励賞の受賞者が決定しました

本学では、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等を目的に「女性研究者学術研究奨励賞」を設置しています。第14回となる今回は、臨床医学部門から3名の応募がありました。

3月6日に開催された選考委員会（委員長：細井裕司学長）で慎重に審議した結果、第14回女性研究者学術研究奨励賞は臨床研修センター助教の大西智子先生が受賞の栄冠に輝きました。おめでとうございます。授賞式および受賞者による記念講演は、中島佐一学術研究奨励賞授賞式と共催予定です。推薦者の小児科学講座 野上恵嗣教授並びに教室の皆さまにもお祝い申し上げます。

今回の応募者は3名と例年に比べ少なかったのですが（図1）、いずれの研究者も多忙な臨床業務や教育に携わりながら立派に研究業績を積み上げておられました。本賞の応募には回数や年齢の制限はありません。今回受賞に至らなかった2名の研究者を含め、臨床・基礎・教養・寄附講座、看護学科から様々な年代、経歴を持つ女性研究者に今後ともご応募いただけますことをセンター一同楽しみにしています。

【受賞者】小児科学・臨床研修センター 助教 大西 智子 氏

【研究テーマ】包括的凝固 / 線溶動態に基づく敗血症性 DIC
(播種性血管内凝固) の病態解明

図1 第1回から第14回までの応募者数の推移

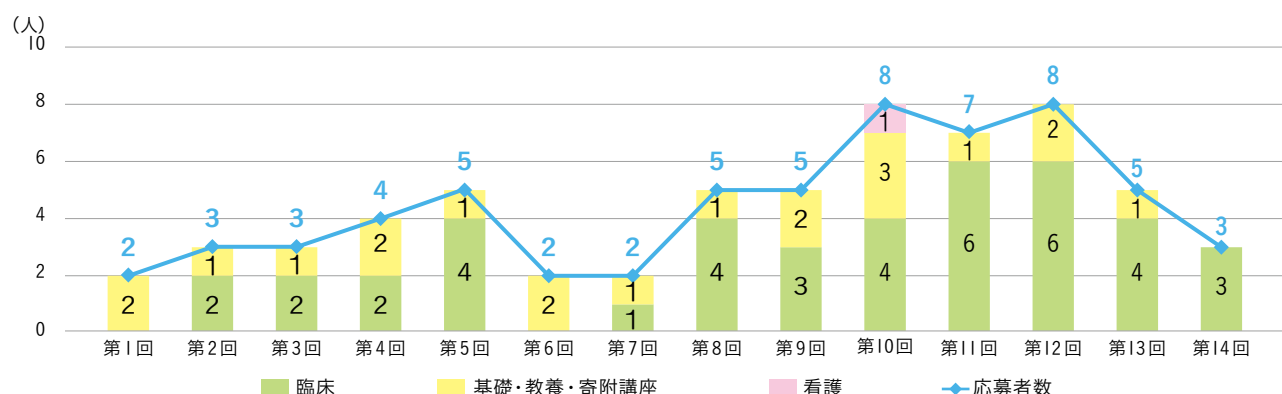


表1 女性研究者学術研究奨励賞受賞者一覧

	所 属	受賞時職名	受賞者	受賞後の状況
第1回	地域健康医学	講師	岡本 希	他学に准教授として転出後、教授就任
第2回	神経内科学	講師	降矢 芳子	他学に教授として転出
第3回	附属病院	講師	水野 麗子	本学で就労継続
第4回	血友病治療・病態解析学講座	助教(寄附講座)	松本 智子	他学に講師として転出後、准教授に昇進
第5回	皮膚科学	学内講師	宮川 史	本学で講師に昇進
第6回	県民健康増進支援センター	特任講師	富岡 公子	本学で特任教授に昇進
第7回	眼科学	学内講師	西 智	本学で講師に昇進
第8回	消化器・総合外科学	診療助教	長井美奈子	本学で助教に採用後、学内講師に昇進
第9回	病理診断学	助教	内山 智子	本学で講師に昇進
第10回	皮膚科学	助教	西村 友紀	本学で就労継続
第11回	小児科学	助教	古川 晶子	本学で就労継続
第12回	消化器・総合外科学	診療助教	松尾 泰子	本学で助教に採用
第13回	解剖学第一	講師	堀井 謹子	本学で就労継続

平成23年以降、これまでに13名の女性研究者が本賞を受賞されました(表1)。13名のうち3名は他学に転出し、2名は教授、1名は准教授として現在ご活躍中です。これらの方々を除く10名は本学で研究を続け、うち6名は受賞後に講師等へ昇進されています。奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞を受賞された方々の今後益々のご活躍を期待しています。

Report 2

近畿地区近隣医科大学医療職サポート事業共同フォーラムに 参画しました

昨年12月18日に京都府立医科大学WLB支援センターみやこ、関西医科大学オール女性医師キャリアセンターが主催する近畿地区近隣医科大学共同フォーラムに参画しました。本学以外にも大阪医科薬科大学、滋賀医科大学、兵庫医科大学が参加し、全6校の担当者が、各大学の研究支援に関する取組や女性医師の雇用状況等についてWeb会議で情報共有を行いました。参加6大学とも女性教員の割合は緩やかな上昇に留まり、教授や准教授等の上位職に女性医師の割合が低いという共通する課題を抱えていました。今後も近隣医科大学との交流を深め、女性医師活躍に有効な支援策を模索していきたいと思います。

【フォーラムの様子】



代表参加者名簿

大学名	氏 名	所 属	職 位
大阪医科薬科大学	松村 洋子	中央検査部	講師
		女性医師・研究者支援センター	センター長
関西医科大学	植村 芳子	病理学	学長特命教授
		オール女性医師キャリアセンター	センター長
京都府立医科大学	外園 千恵	視覚機能再生外科学	教授
		WLB支援センターみやこ	センター長
滋賀医科大学	山原 真子	医師臨床教育センター	特任講師
		医師臨床教育センター	副センター長
奈良県立医科大学	須崎 康恵	女性研究者・医師支援センター	准教授
		女性研究者・医師支援センター	副センター長
兵庫医科大学	高雄由美子	ペインクリニック部	教授
		ダイバーシティ推進室	室長



過去5年間に産休・育休を取得した男女医師数

平成31年1月から令和6年8月までに本学で産前産後休暇（産休）の取得や育児休業（育休）を取得した女性医師は延べ104人、男性医師は18人です。女性医師の所属先は多岐にわたり（表1）、多くの教室で休業中の女性医師をサポートする体制が構築されています。また、女性医師の産休・育休取得日数の平均は298日と1年未満であり（表1）、本学なかよし保育園での0歳児保育は、復職に大きな役割を果たしています。一方、本学男性職員の過半数（54.6%）を占める男性医師（図1）の育休取得者は近年増加傾向にあります（図2）、未だ限定的で取得日数も短い状況です（表2）。国は男性の育休取得を推進しており、厚生労働省の「令和5年度雇用均等基本調査」によると、男性の育休または産後パパ育休（子の出生後8週間以内に4週間まで取得可能な休業、育休とは別に取得可能）取得割合は30.1%と令和4年度の17.1%より13%上昇しています。本学で男性職員の育休取得者を増加させるには、過半数を占める男性医師の取得が不可欠です。各医局においても男性医師の育休取得を積極的に勧め、男性医師の育児環境を支援していただきたいと思います。産休、育休、産後パパ育休の詳細やご利用を希望される方は、人事課にお問い合わせください（内線2209）。

図1 公立大学法人奈良県立医科大学職員（R6.5.1現在）

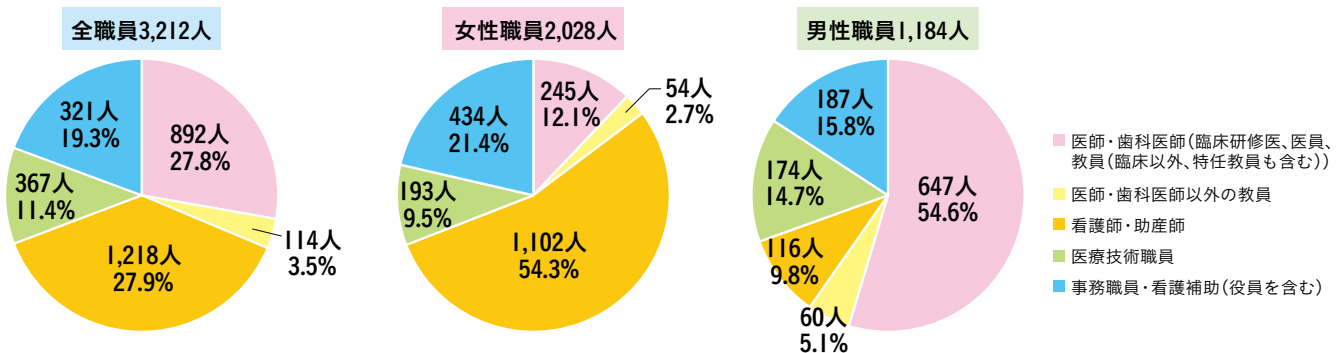


表1 本学で産休・育休を取得した女性医師（平成31年1月から令和6年8月まで）

所 属		取得人数 (延べ)	取得日数/ 1人あたり
臨床医学 教育部門	皮膚科学	13	497
	産婦人科学	10	263
	麻酔科学	8	258
	糖尿病・内分泌内科学	8	207
	総合医療学	5	337
	小児科学	5	285
	眼科学	5	284
	精神医学	5	271
	循環器内科学	5	212
	呼吸器内科学	4	401
	病理診断学	4	253
	腎臓内科学	4	174
	口腔外科学	3	417
	形成外科	3	297
	放射線診断・IVR学	2	354
	救急医学	2	332
	消化器内科学	2	237
	臨床研修センター	2	186
	脳神経内科学	2	158
	周術期管理センター	2	106
	放射線腫瘍医学	1	420
	総合周産期母子医療センター NICU	1	415
	総合周産期母子医療センター MFICU	1	396
	胸部・心臓血管外科学	1	396
	脳神経外科学	1	393
	血液内科学	1	308
	玉井進記念四肢外傷センター	1	95
	ペインセンター	1	80
基礎医学 教育部門	分子病理学	2	251
総 計		104人	298日

図2 本学で育休を取得した男性医師数の推移

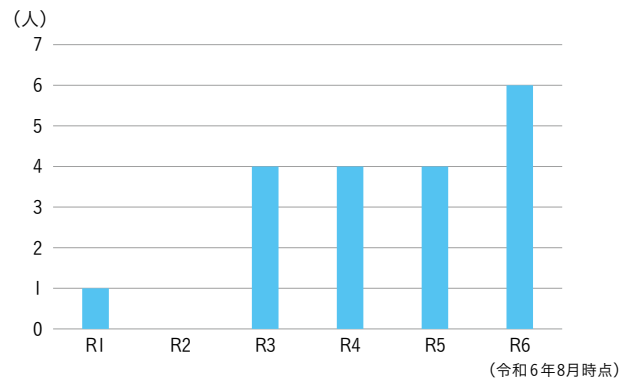


表2 本学で育休を取得した男性医師（平成31年1月から令和6年8月まで）

所 属		取得人数 (延べ)	取得日数/ 1人あたり
臨床医学 教育部門	放射線診断・IVR学	3	47
	呼吸器内科学	2	193
	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	2	5
	糖尿病・内分泌内科学	1	126
	脳神経外科学	1	65
	整形外科	1	34
	脳神経内科学	1	24
	臨床研修センター	1	18
	感染症内科学	1	13
	総合医療学	1	12
	産婦人科学	1	10
	精神医学	1	5
	血液内科学	1	4
	救急医学	1	2
総 計		18人	45日



教職員の保育環境について



令和6年5月現在で本学には3,212人(男性1,184人、女性2,028人)の職員が勤務しています(前頁 図1)。これら教職員の子育て支援の一環として、0歳児から5歳児まで各年齢の定員25人、総定員150人の学内保育園(なかよし保育園)が整備されています。生後57日から就学前までの乳幼児を入園対象とし、開園時間は7時から20時、保護者が勤務の場合には土曜日保育や金曜日の夜間保育も実施しています。令和6年4月1日時点の在籍園児は108人でした。保護者の職種は多岐にわたっており、学生も利用可能です(図1)。なお、年度途中で復職や入職する教職員の保育ニーズに対応するため、4月1日以降も随時入園を受け付けています。結果、令和7年1月1日時点の在籍園児は120人に増加しています。(なかよし保育園 HP <https://www.naramed-u.ac.jp/university/kanrenshisetsu/nakayoshihoikuen/index.html>)

病児・病後児保育に関しては、平成27年1月から民間医療機関(医療法人吉川医院)と連携して生後6か月から小学生を対象に実施しています。令和5年度に本制度を利用した職員は、医師を中心に22人と全体の1%にも満たない人数ですが(図2)、子どもの体調が悪い時のセーフティネットがあることで安心して復職し、就労を継続できる職員は多数いると思われます。病児・病後児保育の詳細やご利用を希望される方は、総務広報課にお問い合わせください(内線2226)。

図1 なかよし保育園に在籍する全園児の保護者の職種内訳

※父母共に本学職員・学生の場合、母親の職種で集計

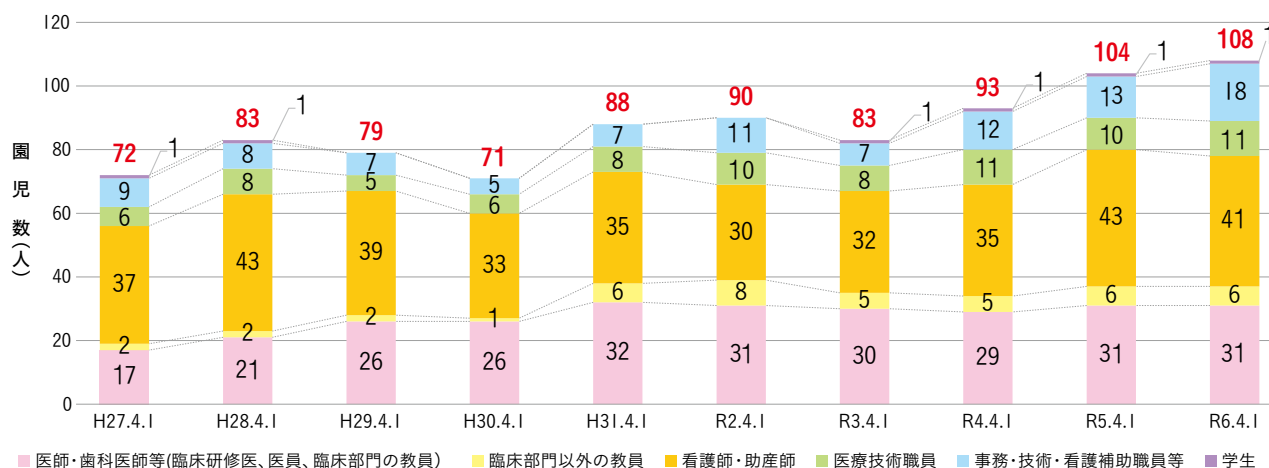
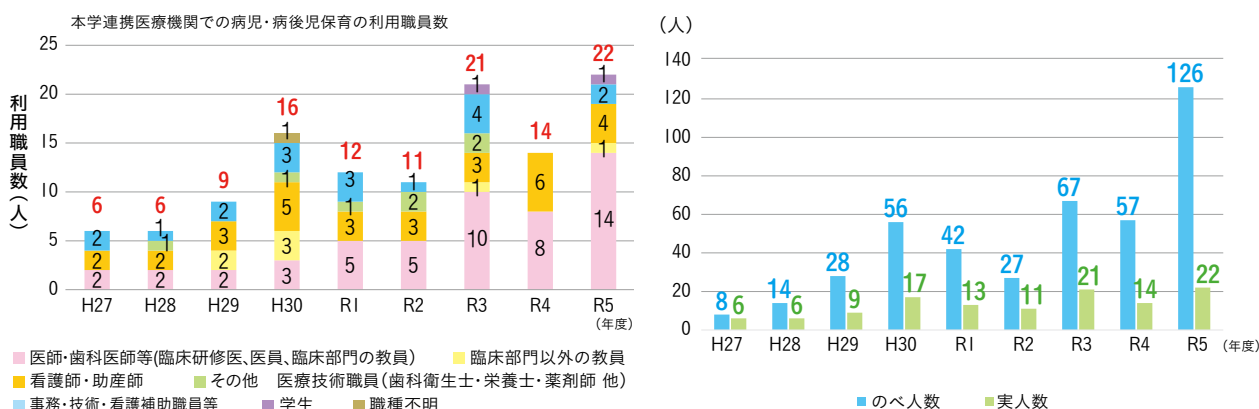


図2 本学連携医療機関での病児・病後児保育の利用職員数



[編集後記]

今年1月に御興久美子先生の訃報が届きました。御興先生は本センターの設立にご尽力され、平成23年から約3年間センターの特任教授を務められました。研究支援員配置制度をはじめ様々な事業を展開し、本学における女性研究者支援の礎を築かれました。また、ハラスメント防止や被害者救済活動にも熱心に取り組み、退職後は先生が代表者を務めるNPO法人で精力的に活動されていました。御興先生のご生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

副センター長 須崎康恵

[編集・発行]

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階
TEL: 0744-23-8011(直通)
0744-22-3051(代) 内線: 2525
E-mail: jshien@naramed-u.ac.jp

